

とおかまち

Public Relations

市報



11 2015
/10

平成27年 11月10日号



No.255

特集

感謝と革新、
そして新たなステージへ
十日町市制施行10周年

(2~11ページ)

わたしも10歳
十日町市も10歳



その他の主な内容

12	ピックアップニュース	20	連載コーナー②
14	第48回十日町市美術展	21	キラメキワークス
16	全国学力・学習状況調査結果	24	お知らせ・ガイド
17	十日町市空き家バンク開設	26	連載コーナー③
18	連載コーナー①		熱中・夢中／おらほのたから
	こへび隊・サポーター通信／想史創愛		ジュニア芸術祭
	タウントピックス		

感謝と革新、そして新たなステージへ

十日町市誕生 周年

平成17年4月1日で新市誕生から
10周年を迎えました。

十日町市の10年は、
あなたの10年でもあります。

あなたの10年、
どんなことがありましたか。
何を感じましたか。

本特集は、10年を振り返るとともに、
十日町市と皆さんが未来に向かって
それぞれのストーリーを描くきっかけとして
お贈りします。



十日町市制施行
10周年記念誌を
もとに特集します

企画政策課・
各支所にて
500円で頒布中



市制施行10周年記念誌

Facebook ページ
「とのおかまち未来 Story」
で配信中



十日町市長 関口 芳史

市民と応援団の力で創られた 十日町市。このことに感謝

10年目の節目を迎えた今、私は
合併を選択したことは正しかった
と確信しています。現在は、合併
前の各市町村の強みが新市の強み
となり、足りないところは市全体
で補う形ができあがりました。

川西地域で息づいていた「協働
のまちづくり」、中里地域で培わ
れている消防団の伝統の団結力、
松代地域で築かれた世田谷区・早
稲田大学などの交流、松之山地
域の松之山温泉や美人林などの大
自然の恵みなど、各地域の強みは、
市経済の中心地である十日町地域
を通じて相互に連携し、市の一体
的な施策の展開に確かに生かされ
ています。

ところで、合併後10年の歩みを 振り返りますと、決して順風満帆 と言えるものではありませんでし た。合併直後は前年10月23日に発 生した中越大震災からの復興に全 力を注がなければなりませんでし たし、その後も地震や豪雨、豪雪 で難局が続きました。その中で、 次の時代につながる財産を手に入 れることができたと思います。

それは、十日町市を愛し、理解
し、応援してくれる外部のサポー
ターの皆さんとの絆です。大地の
芸術祭サポーターの「こへび隊」
やNPO法人JENから復興支援
にご尽力いただきました。市内出
身の皆さまからも、物心両面にわ
たるご支援をいただきました。多
くの友好都市の皆さまから多く
さん激励していただきました。

これからの未来へのストーリー を共に描きましょう

この10年間で培った強い絆で結
ばれた市民とサポーターの皆さん
が、共に地域を盛り立てていただ
くことで、さらに多くの人が集ま
り、刺激し合い、それによって志
を持った市民が育つていくと信じ
ています。それが新たなステージ
に向かうストーリーには欠かせな
いものとなると考えます。

この貴重な絆をさらに強固なも
のとし、市民一人ひとりが十日町
市の成長を実感し、「ああ、やつ
ぱり十日町市で生きて良かった」
と心から思えるよう、全力でまち
づくりに取り組んでまいります。

ふりかえる10年

多くの組織が生まれ、多くの取組みが始まり、多くの施設が出来上がった10年間。一方で多くの災害に見舞われ、そのたびに市民の力をもって立ち上がった10年間でもありました。写真と年表で10年をふりかえります。

●は起こった月

- 2005年**〔平成17年〕
- ④ 新・十日町市誕生①
 - ⑤ 市長・市議会議員選挙
 - ⑧ 市内各地域で地域協議会が発足
 - ⑩ 新十日町市観光協会発足

- 2006年**〔平成18年〕
- ① 平成18年豪雪②
 - ① エフエムとおかまち開局③
 - ④ 千手中央コミュニケーションセンター開館
 - ⑤ 大貝トンネル・白倉大橋開通
 - ⑥ 千年―池尻間大橋開通
 - ⑥ 十日町市総合計画・基本構想策定
 - ⑦ 第3回大地の芸術祭開幕
 - ⑩ 中里支所新庁舎開庁

- 2007年**〔平成19年〕
- ④ 十日町地域に7つの地域協議会が設立
 - ⑦ 中越沖地震発生④
 - ⑧ 川西支所庁舎完成

- 2008年**〔平成20年〕
- ④ 真田トンネル開通⑤
 - ⑨ 信越トレイル全線開通
 - ⑨ J R信濃川発電所宮中取水ダムで不正取水発覚
 - ⑩ 雪国観光圏発足
 - ① 国道353号松之山バイパス開通⑥

- 2009年**〔平成21年〕
- ② 第64回国民体育大会「トキめき新潟国体」冬季大会スキー競技会開催⑦
 - ④ 市長・市議会議員選挙
 - ⑦ 第4回大地の芸術祭開幕
 - ⑨ 地域おこし協力隊が市内で活動開始⑧
 - ⑩ 第15回全国棚田（千枚田）サミット開催
 - ⑩ 「トキめき新潟国体」デモンストレーション競技大会開催

2010年〔平成22年〕

- ③ J R東日本の信濃川水利使用許可申請の同意書に調印⑨
- ③ 大地の芸術祭実行委員会が第7回オーライ！ニッポン大賞受賞
- ④ 松之山温泉で全国初の温泉発電取組み開始
- ⑦ 十日町市エコポイント事業始まる
- ⑧ 上越魚沼地域振興快速道路八箇峠トンネル十日町市側の掘削開始⑩
- ⑫ 市総合計画後期基本計画策定

2011年〔平成23年〕

- ③ 長野県北部地震発生⑪
- ⑦ 平成23年7月新潟・福島豪雨災害発生⑫

2012年〔平成24年〕

- ③ 市役所本庁車庫棟を防災拠点として整備
- ④ クロステンリニューアルオープン
- ④ 地域自治組織による新しい自治の仕組みが始まる
- ⑦ 越後妻有里山現代美術館「キナレ」オープン
- ⑦ 第5回大地の芸術祭開幕
- ⑦ ジャパン・クロアチアフレンドシップハウス完成
- ⑪ J R飯山線にSLが40年ぶりに運行⑬
- ⑪ 国道253号池尻大橋・長者原橋開通

2013年〔平成25年〕

- ① 駅西土地区画整理事業が完了
- ④ 十日町小学校・ふれあいの丘特別支援学校・発達支援センターが併設の「夢の学校」開設⑭
- ④ 市長・市議会議員選挙
- ⑥ 中心市街地活性化基本計画が国から認定
- ⑫ 市道の除雪制度を全市統一

2014年〔平成26年〕～**2015年**〔平成27年〕

- ② ソチ冬季オリンピックで市内出身3選手が奮闘
- ③ 越後妻有 雪花火を初開催⑮
- ⑤ 市内全中学校区で小中一貫教育本格スタート
- ⑦ 本町西線全線開通
- ⑨ 吉田クロスカントリー競技場が、国際スキー連盟公認コースに認定
- ⑩ 十日町市まちづくり基本条例を制定



中越地震10年の節目としてNHKのど自慢開催（2014年10月）



13



11



9



10



6



4



2



1



15



14



12



8



5



3



7



小貫閉村式（2007年11月）



川西有機センター完成（2005年7月）

十日町・津南若手ファーマーズ「ちやーはん」リーダー 宮澤 健太郎さん（小黒沢）

農業のテーマパークをつくりたい

平成26年夏、十日町市と津南町の若手農家が集まって「ちやーはん」を結成しました。里山カタログ本を作るなど他業種と交流しながら、農業と地域の可能性を広げるべく活動しています。夢は、若い農業後継者を増やして、みんなでこの地に農業のテーマパークを作ることです。

経験を生かして、一人前の大工に

小学生のときから憧れていた大工になりました。技能五輪全国大会で優勝（女性で初の日本一）、翌年の技能五輪国際大会に日本代表として出場しました。この経験を生かし、雪国でも安心して暮らせる純和風の家を建てられる一人前の大工を目指して仕事に励んでいます。

大工（尾身建築）
廣井 真穂さん（北新田）

エル・A・L・E・B・I・A & ビッツァー オーナー 高木 千歩さん（宮下町）

ただいま「十日町地ビール」構想中！

「地域おこし協力隊」として移住、地域の人たちのたくましさや優しさ、地元のおいしい食材に魅かれ、定住を決めました。任務終了後は、シカゴピザと各地の地ビールを楽しめるお店をオープン。次の夢は、地元食材を使った「十日町地ビール」。ただ今、勉強＆構想中です。

吉田の競技場からオリンピック選手を！

昭和45年ごろから始まった吉田地区のクロスカントリースキーのコース整備。今ではFIS公認コースとなり国際大会も可能になりました。今後は、オリンピック選手の輩出はもちろん、サッカーやローラースキーなどの環境整備を進め、多目的の施設として充実させていきたいです。

十日町スキー協会
会長 小山 勇蔵さん（北鎧坂）

不老閣デイサービスセンター生活相談員
志賀 美智子さん（松之山三橋）

支え合いで、誰もが穏やかに暮らせるまちを

生まれ育った地域に恩返しがたくて、福祉の世界に。現在、松之山の施設で、一人ひとりに合わせた過ごし方のケアプランを提供しています。また、寸劇などで認知症への理解を促す活動を始めました。今後も、地域の人たちと一緒に、より良い在宅ケアができる環境をつくりたいです。

革新

感謝

市民の夢＝明日の十日町市

十日町市の10年は、市民一人ひとりの活動が作り上げたもの。これからも市民の思いが形になってまちがつけられます。市民の夢は明日の十日町市。そこで、それぞれの分野で活躍している市民10人に、将来の夢を語ってもらいました。

安心な暮らしのため、地域に根ざした活動を

「地域社会に役立ちたい」という思いから平成20年に入団しました。災害や有事のときの後方支援はもちろん、普段も、一人暮らし高齢者世帯の巡回や、紙芝居で子どもたちへの啓発もしています。今後も活動を通して、安心して暮らせるまちづくりに貢献していきたいです。

十日町市消防団女性部
部長 高野 芳子さん（北新田）

吉澤織物㈱
主任 村山 拓郎さん（田沢本村）

十日町明石ちぢみの伝統技術を伝え継ぎたい

伝統的工芸品「十日町明石ちぢみ」の企画制作を担当。自分のデザインが形になって世に出ることにやりがいと誇りを感じます。先達の伝統工芸士の技術や心構えの教示に感謝しながら、伝統工芸士を目指して研さんを積み、「十日町明石ちぢみ」の名を国内外に広げていきたいです。

市民パワーで大地の芸術祭を盛り上げたい

大地の芸術祭は今年で6回目。第3回展から手伝っています。毎日のように国内外の素晴らしい人たちがあえる最高の機会だと思っています。信濃川・里山・豪雪・食など、市の宝をPRできる場でもあります。もっと市民の参加が増え、全ての集落が関わればいいなと思います。

大地の芸術祭
地元サポーター／ツアーガイド
樋口 道子さん（高田町）

ラフティングガイド
村越 利博さん（上山）

安心して楽しめるアウトドアスポーツ王国に

平成26年からラフティングガイドをしています。日本一の大河・信濃川は、激しい瀬も雄大な流れも体感でき、子どもも大人も楽しめます。市内には、他にもカヌー・釣り・トレッキングなどの素晴らしいフィールドがあります。十日町市をアウトドアスポーツのメッカにしたいです。

市民の力でまちを盛り上げたい

ひとサポは、市内の人や団体をつなぎ、市民活動を充実させる取り組みを平成23年からしています。「十日町にはやりたいことを叶えてくれる受け皿がある」。市外の若い人の言葉です。今後は、さらに市民活動を盛り上げながら、市外の人たちとの交流にも力を入れていきたいです。

NPO法人市民活動ネットワークひとサポ
理事長 渡貫 文人さん（上野）

十日町に移住したきっかけは？

佐藤さん―池谷集落での農業体験に参加したときに会った人々の、土に向かうことを通して生まれる生き方に感動しました。農業が、文化や人やコミュニティを育んでいる。限界集落でも被災地でも、農をつないでいけば、地域をつなげられるのでは。そういう思いで、移住と就農を決めました。

金岡さん―もともと「地方でビジネスを起こしてみたい」「地域資源を活用して地域存続の仕組みを作りたい」と考え、地域おこし協力隊に応募しました。豪雪も大自然も農業も、大変というよりワクワクさせてくれましたね。他にはない地域資源だと思い、ここでビジネスをしようと決めました。

近藤さん―農業を体験してみようと軽い気持ちで池谷集落の1か月間のインターンに応募しました。本当に何もない山の中。でも何もないことがなんだか楽しい。人々はとてもたくましく地に足つけて生きている。人間本来の暮らしがある。とにかく感動して、十日町市から離れがたくて、「ここに住む！」と決めました

吉井さん―新潟市で勤めていると

娯楽ない、教育ない―。こんなところは何で来たの？」と言われたこともありました。でも、仕事も娯楽も教育も自分たちで作りに出している。十日町市は、そういうチャレンジができるところ、サポートし合える人がたくさんいる場所だと思っています。今は農業をしながら、市の魅力を掘り起こして発信するさまざまな活動に取り組んでいます。

吉井さん―脱サラで、土地は自家用の田畑のみで機械も当然なく、不安だらけの就農でした。市や県からの支援や、地域の先輩農家の指導、ご近所の皆さんの手助けのおかげで、これまで取り組んでくれました。地域の皆さんの温かさが十日町市の魅力の一つだと思います。今後は、自分でできることを増やしなが、農を通して地域に恩返ししていきたいです。

十日町市の未来は？皆さんの未来は？

近藤さん―十日町市には変わってほしくない。集落間、世代間のつながりを強くして、今ある市の魅力を次の時代へとつなぐいでほしいですね。ここで学んだ大切なこ

描く未来ストーリー

市内には、十日町市に魅力を感じて移住する人が増えてきています。そこで、外部の視点から見た十日町市の魅力と未来への可能性を、4人の移住者から語ってもらいました。



撮影場所：奴奈川キャンパス

きに出会った農家の人柄と生き方に魅力を感じて、農業に興味を持つようになりました。時を同じくして、つきあい始めた妻がすでに十日町市への移住と就農を決めていました。十日町市で農業をしようと思った。

十日町市で、どのように暮らしていますか？

金岡さん―地域資源を活用したビジネスを展開するクリエイター集団「SPLASH」を設立しました。十日町の着物地や松代の伊沢和紙などを使った灯り(照明器具)の販売や各種イベントなど、地元の人たちを巻き込みながらプロデュースしています。忙しいけど楽しい毎日です。

近藤さん―「里山プロジェクト」復興支援員として2年目です。最初は、なかなか受け入れてもらえないと感じましたが、集落を回って顔を覚えてもらうと、「ありがとう」「うれしいわ」と声をもらえるようになりました。感激です。今は皆さんから吸収することばかり。一日も早く地域の役に立てるようにがんばります。

佐藤さん―当初は、「仕事ない、

とや素敵なことを、生まれてくる子どもたちに教えて、外の人たちにも発信していきたいです。

吉井さん―まずは、農業で生計を立てること。そして、いろんな世代、業種、地域の人たちがつながり助け合い、一緒になって楽しめるまちになるよう、農業を通して関わっていききたいです。

佐藤さん―たぐさんの孫と子どもに囲まれて、幸せなおばあちゃんになつていたい。農業も生き方も暮らしも、バトンにして次につなげたい。それが私の夢。そのためにも、子どもと一緒に農業をやって、十日町市を愛する仲間を増やして、人がどんどん集まってくるまちにしていきたいです。

金岡さん―風を吹き込むことをしたい。十日町市で新しい仕事を起こす。ずっと暮らしている環境を作る。子どもを産んで育てられる仕組みを作る。「帰りたいけど、仕事がなく戻れない。」という人が戻れるようにしたい。つまり、地域への愛着を持っているUターン者を増やしたいんです。十日町市全体の未来を元気にするためにも、若い人たちが戻って来なくなる下地づくりをどんどんやっていきたいです。



吉井 淳さん（仁田）

兵庫県出身。信州大学卒業後、新潟市の環境調査の会社に就職。その頃知り合った篤農家の人の生き方に感銘を受け農業に興味を持つ。市内仁田にある祖父母の家へ移住していた奥さんとの結婚を機に、移住・就農を決心。平成22年から約2年間、有機農業を実践している農場で研修を受け農業を始める。

近藤 愛己さん（川治）

滋賀県出身。平成25年10月、自分で作った「～21歳計画」の中の一つ「農業を体験すること」を果たすために、池谷集落にインターンとして1か月活動。そのまま移住を決意。同年12月よりNPO法人 十日町市地域おこし実行委員会「里山プロジェクト」復興支援員として川西地区を担当。



金岡 孝さん（松之山黒倉）

埼玉県出身。大学卒業後、不動産営業、IT関連のプログラマーを経て、「地方での起業」を目指し、平成24年4月から地域おこし協力隊（水沢地区南雲集落担当）に。任期中から「地域が存続していく仕組みづくり」を模索しはじめ、平成26年に十日町市内に住む若者で構成するクリエイター集団「SPLASH」を立ち上げる。

佐藤 可奈子さん（小泉）

香川県出身。立教大学在学中、市内池谷集落の農業体験に参加。卒業後、平成23年2月に池谷集落に移住、就農。移住女子フリーペーパー「ChuChu」編集長。女性用農作業着の開発や若手農家集団「ちゃーはん」のプロデュースを手がける。十日町市農業委員。新潟日報で「きぼうしゅうらく」、全国農業新聞で「一粒万倍」を連載中。



次代につなぐ風景

四季折々に多彩な表情を見せてくれる十日町市の風景。10周年を機に未来に残したい10の風景を市内外の多くの皆さんから選んでもらいました。

※たくさんの応募・投票ありがとうございました

好きな風景は、手を加えて残すもの

今回の企画を通して、私の好きな風景を知ってもらいたいとの思いで応募しました。

応募した「ゆっくり広場」は、国宝の火焔型土器が眠っていた笹山にあり、かつてはスキー場でにぎわった場所。「ゆっくり、あせらず、あきらめず、その夢をつないでゆこう」と、縄文人と自分の地域発展の夢を重ねた亡き主人の思いも込めて、そこを公園にしました。地主や管理してくれる皆さんのおかげで風景として保たれています。

今回選ばれた10景は、手の加えられたものが多いですね。好きな風景、守りたい風景を残すためには行動することが大切だと思います。

※残念ながら選外となった「ゆっくり広場」(中条上町)



十日町市民憲章

十日町に生きる私たちは日本にほんを生きる

日本にほんに生きる私たちは世界を生きる

世界に生きる私たちは宇宙を生きる

私たちをつくるのはひとりひとりのヒト

ヒトはひとりどう生きるかの技アートを求め

ヒトはヒトとどう創つくるかの技アートを究める

野に山にヒトは学び 里さとに町にヒトは勤いそしむ

縄文ほのおの炎きようを今日けふに伝えて 雪しろの白あすに明日あすを描えがき

限らない大空のもと 十日町市の大地に生きる

十日町市の10年、市民一人ひとりの10年
これまでの道のりを作り上げた全ての人に感謝し、
私たちの誇りを胸に未来へ進むため、
ここに市民憲章を定めます。
十日町市と、ここに生きる私たちの道しるべとして―。

市民憲章ができるまで

市民から市民憲章に入りたい言葉を募集したところ、雪・縄文・芸術・思いやりなど、さまざまな言葉が集まりました。十日町市に縁のある詩人の谷川俊太郎さんが、その集まった言葉に込められた市民の思いや願いを基に起草しました。

感謝と革新、そして新たなステージへ



田村 シゲさん
(74歳・中条上町)

版画

市展賞

「青春、朱夏、白秋、玄冬」
松本さりな（中島町）

◆奨励賞

小川 仁（長岡市）

◆佳作賞

室橋 浩一（長岡市）



書道

市展賞

「五言絶句」
蕪木佳代子（神明町）

◆奨励賞

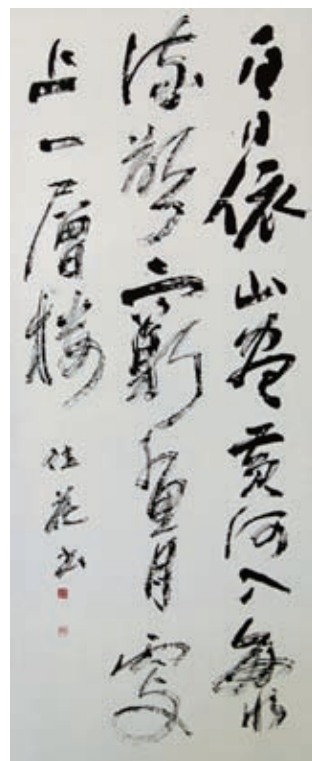
大島 テル（川治内後2）
坂大 優一（魚沼市）

◆新潟日報美術振興賞

島田 美穂（新座3）

◆佳作賞

山口 典子（高山4）
高橋 伸子（四日町新田1）
小川 隆（四日町新田2）
保坂 千紘（姿2）
樋口こずえ（土市2）



現代美術

市展賞

「輪廻転生」
村山三智男（高田町3西）

◆奨励賞

中 豊和（稲葉）

◆新潟日報美術振興賞

佐藤 翔圭（十日町総合高校）

◆佳作賞

柳 建一（高島2）
池田 広吉（津南町）
高橋まどか（十日町総合高校）

高橋由香里（津南町）
阿部 松三（大黒沢1）
高橋 俊明（新座4-2）
佐藤 明彦（松之山）
清水 孝子（学校町1）
富井しおり（十日町市）
中林 正一（中条上町）
和田 亨（小千谷市）
清水 正（木島）
和田 明子（倉俣）
阿部 佑輔（本町6-3）
西野 米子（島）
◆佳作賞
山岸多喜男（蒲生）

◆新潟日報美術振興賞

鈴木 耕治（津南町）
村山 博（中町）
西川 恒夫（四日町2）
桜沢 正司（姿1）
村山 順三（山本町3）
鈴木 洋一（松代）

◆奨励賞

小坂 幸平（稲荷町西）

市展賞

「雪の日の墓参」

写真



第48回十日町市美術展

市展入賞者をお知らせします

問合せ：生涯学習課 ☎757-8918



市展賞

「峠の夜明け」
狩野 敏（南魚沼市）

◆奨励賞

関川 捷次（小千谷市）

◆佳作賞

新保 正文（小千谷市）

日本画



市展賞

「白い花束」
曾根 知子（新座3）

◆奨励賞

中林賢次郎（学校町2）

◆佳作賞

須藤 雅昭（上新田4）

彫刻



市展賞

「午後のアトリエ」
原 進（稲荷町3北）

◆奨励賞

田村紀代子（下条本町）
高橋永美子（津南町）

◆新潟日報美術振興賞

十日町洋画同好会（学校町1）

◆佳作賞

村山富士子（水口）
山田 敏雄（旭ヶ丘）
大淵 利夫（小千谷市）
大海 由美（四日町3）

洋画

工芸



市展賞

「妻有焼 三島印花文偏壺」
樋口 正博（朴木沢）

◆奨励賞

五十嵐江美子（小荒戸）

◆佳作賞

山内 正胤（学校町1）



ふるさとを愛し 自立して社会で生きる子どもの育成のために

問合せ：学校教育課 ☎757-9957

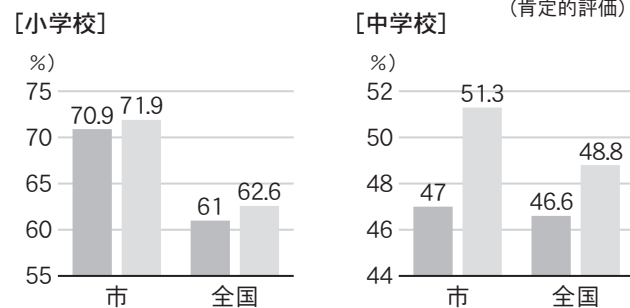
学習状況調査

児童生徒の意識や基本的な生活習慣、学習の取組状況などを調査しました。（一部抜粋）

※各時間は、市教委で独自に算出したものです

家で自分で計画を立てて勉強している

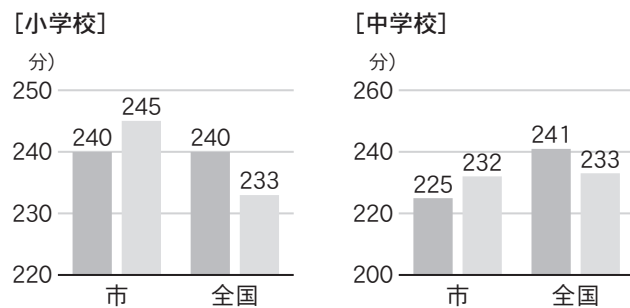
■ H26 ■ H27



■家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、全国よりも高いです。特に中学校では昨年度よりも割合が、大きく伸びてきています。

テレビやゲームなどの時間

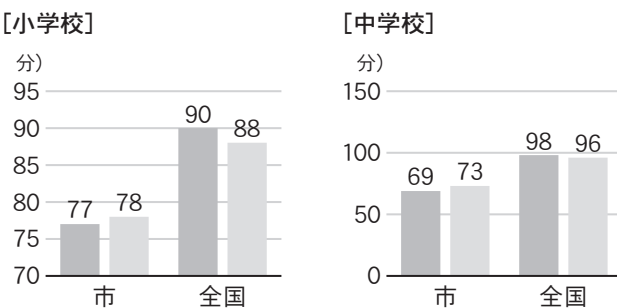
■ H26 ■ H27



■テレビを見たり、ゲームをしたりする時間は、全国的に減少している中、増えてきています。

家庭学習時間(塾を含む)

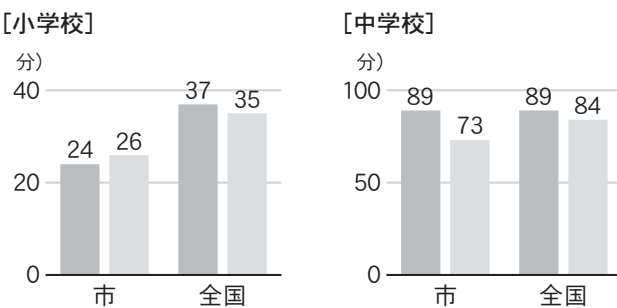
■ H26 ■ H27



■家庭学習の時間が伸びてきています。特に中学校が伸びてきています。しかし、小・中学校とも全国平均を下回っています。

スマホ使用時間

■ H26 ■ H27



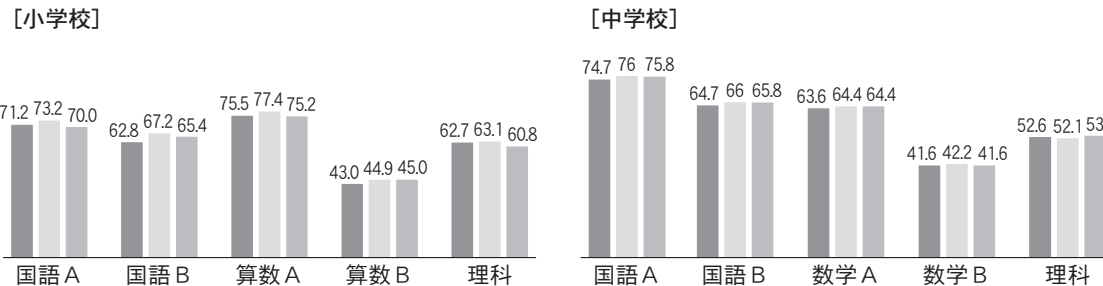
■スマホ使用（通話・メール・インターネット）の時間は、全国よりも短いです。中学校では使用時間が減少し、小学校では増加しています。

学力調査

「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」「学んだことを活用する力」を調査しました。※次の結果はその一部です

平成27年度全国学力調査

■ 市平均 ■ 県平均 ■ 全国平均



※市・県・全国の平均正答率の比較。Aは知識、Bは活用力を問う出題

〈共通〉県・全国と同様に知

成果と課題

・小学校…国語・算数のA、理科はわずかに全国を上回り、国語・算数のBはわずかに全国を下回っています。理科を除き、県を下回っています。

・中学校…国語A、数学Aはわずかに全国と県を下回っています。また、数学Bは全国と同等になりました。理科は、全国よりわずかに低く県よりわずかに上回っています。

結果

識だけでなく活用力の向上が必要です。

課題解決の方向

活用力を高めるため、学力調査のB問題を分析して、どのような力が劣っているかを把握し、日々の授業を改善していく努力が求められています。

・教育委員会…学校訪問や授業研究などで学校に指導していきます。

・市教育センター…教職員の指導力向上をめざして、「若手教員サポート研修」や「全国的に著名な講師や市内のエキスパート教員による模範授業公開」などの研修をしていきます。

・各学校…児童生徒が自ら課題を見つけ、自ら考えて解決する学習をしていきます。

課題解決の方向

子どもの生活時間の使い方に関心をもつことが大切で

家庭

お互いに連携し、家庭学習習慣の定着を図ることが望まれます。また、メディアコントロールの取組みを一層推進する必要があります。

家庭・学校・地域

このほか「自分にはよいところがある」「将来の夢や希望がある」の項目の伸びが見られ、全国並みになってきました。家庭・地域での賞賛や励ましが子どもたちを育むことにつながります。



「十日町市空き家バンク」開設

空っぽの家に、笑顔を詰め込みませんか

●●●●●問合せ：企画政策課移住定住推進係 ☎755-5137

空き家バンク
の登録

持ち主側

- 登録対象物件
個人が所有する一戸建て住宅で、売却・賃貸したい物件。
- 申し込み
空き家バンク登録申込書（企画政策課に配置、市ホームページでも入手可）に必要書類を添付して問合せ先に提出。
- 登録期間
原則2年間。登録期間の延長や登録を抹消するときは、別途手続きが必要。
※物件所有者・宅建業協会・市で詳細な現地調査を実施します

利用者側

- 登録対象者
市に定住、または定期的に滞在して、地域の活性化に寄与できる人。地域住民と協調して生活できる人。
- 申し込み
空き家バンク登録申込書（企画政策課に配置、市ホームページでも入手可）に必要書類を添付して問合せ先に提出。※ホームページ上の紹介物件で希望があれば物件No.を記入してください
- 登録期間
原則2年間。登録期間の延長や登録抹消をするときは、別途手続きが必要。

補足

市では（公社）新潟県宅地建物取引業協会と業務協定を締結していて、協会十日町支部加盟の協力事業者の仲介による交渉・契約となります。成約時に法律に基づく仲介手数料が発生します。

10月1日
開設

「空き家を有効に使ってほしい」という持ち主と、「十日町市に住むために家を探したい」という利用者の橋渡しをする「十日町市空き家バンク」を開設しました。持ち主も住む人も笑顔になれる本制度をぜひ利用してください。

持ち主への助成

【家財道具などの処分】

「空き家バンクに登録したけれど、家財道具が残っているから」と登録を諦めている物件所有者を支援します。

- 対象者Ⅱ空き家バンクに登録済み、または登録が確実な物件所有者

- 対象経費Ⅱ市内に本店などを置く事業者に請け負わせた次の経費

- ・屋内の家財道具などの搬出や処分に必要な経費
- ・屋内外の清掃に必要な経費

- 金額Ⅱ補助対象経費の10分の5（上限10万円）

利用者への助成

空き家バンクを通じて、物件を購入・賃借した人の移住・定住を支援します。

【家屋の改修】

- 対象者Ⅱ空き家バンクを通じて、物件を購入または賃借した市外からの移住者

- 対象経費Ⅱ市内に本店などを置く事業者に請け負わ

た家屋本体や住宅設備の改修に要する費用（備品購入費・外構工事は除く）

- 金額Ⅱ補助対象経費の全額（上限50万円）

【家賃などの補助】

- 対象者Ⅱ次の全てに該当する人

- ・空き家バンクを通じて、物件を賃借した市外からの移住者
- ・転入時、婚姻しているときは配偶者との合計年齢が80歳以下、婚姻していないときは年齢が40歳以下である人
- ・物件所有者の3親等以内でない人

●対象家賃などⅡ

- ・空き家の月額家賃（管理費・駐車場費は除く）
- ・空き家の賃貸借契約にかかる敷金・礼金

- 金額Ⅱ
- ・家賃月額の10分の3（月額上限2万円、最長24か月分）
- ・敷金・礼金の合計額の10分の5（上限5万円）

大地の芸術祭の里

こへび隊・サポーター通信 ⑬

三井田 直生さん（上越市出身・16歳、松代高校2年生）

大好きな芸術祭に
関わられてうれしい

- ▼大地の芸術祭を知ったきっかけ

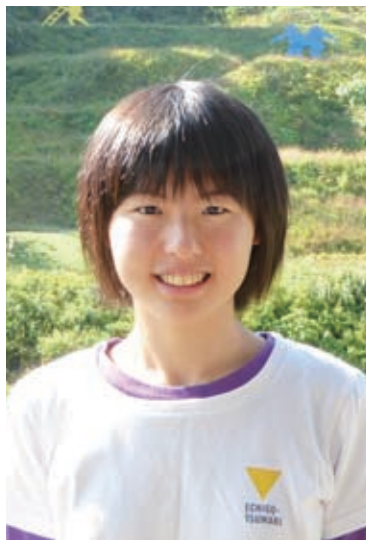
「小学5年生のとき、松代で教員をしていた父に誘われ家族で見え回ったのがきっかけです。作品や地域の雰囲気、気に入って、一気に芸術祭が好きになりました。」

▼活動を通しての感想

「とても充実した夏になりました。会期中、作品の受付で、見知らぬお客さんともいろいろなおしゃべりができ、それが楽しになりました。」

▼サポーター活動の魅力とは？

「作品制作時に、作家や作家グループとの出会いがあるのはサポーターならではのうれしいです。お客さんとは違う、制作に携



わったからこそその視点で作品を楽しめます。集落の人の人柄・優しさにも触れ、改めて妻有が好きになりました。」

▼これから「こへび隊」や「地元サポーター」になる人へ一言

「ボランティアは初めてでしたが、人の役に立ったり、自分の新たな経験になったりしてやりがいがありました。ぜひサポーター活動でそれを感じてください。」

■問い合わせ先

「大地の芸術祭」の里
総合案内所
☎761-7767

郷土出身者が写真を添えて昔の思い出を語ります。



小堀 一男さん
埼玉県久喜市在住
(76歳・蒲生出身)

■問合せ
企画政策課広報広聴係 ☎757-3112

■高校の寮生活は人生道場

県立松代高校では自宅や下宿からの通学が困難な人は、「向々原寮」（現在は早稲田大学の早稲田クラブ松亭ドミトリ）に入寮して、先輩から後輩まで同室で生活していました。先輩・同僚・後輩の間で、礼儀などで自然に軋轢が生じますが、これを乗り越えるのが人生の鍛錬であり、後に絆や同窓愛へとつながっていくのでした。

■故郷の魅力は、自然と着物

小生は転勤族でしたが、よく十日町市の良さが話題になり、褒められるのは①棚田の美、②大地の芸術祭、③着物、④自然美が中心で、ほぼ自分の感じていることと同様でした。この自然の良さや伝統の財産をどう生かすかが、ふるさとの活性化の鍵になると思います。

■持てる財産を生かしてほしい

去る10月、津軽平島に旅行しました。なんと、「地吹雪体験ツアー」なるものがありました。必ずしも模範的な事例ではないかもしれませんが、これからの若い人には実体験を加味した旅行が人気上昇中です。リピーターがどんどん十日町市にやってくるように、発想を転換しようではありませんか。



学生時代、8畳間に8人居住。暖房はこの火鉢のみ（中段の左が小堀さん）



「おいしい！」を和光市の子どもたちにも

10月13日(火)：和光市立第四小学校

埼玉県和光市との交流事業の一環として、和光市立小中学校全11校（小学校8校・中学校3校）の米飯給食で「十日町産魚沼コシヒカリ」を使用することになりました。10月から毎月1回、6,400食分（550kg）を提供します。はじめて提供されたこの日は、関口十日町市長が給食の時間に訪問し、校内放送で十日町産魚沼コシヒカリを紹介。生産者の皆さんと一緒に6年生の教室を回り、「おいしい」とごはんをほおばる子どもたちの笑顔を確認しました。

みんなで走れば24時間もきつくない!?

10月3日(出)～4日(日)：松代総合体育館クロカンコース

1周2.13キロメートルのコースを1チーム10人以内のメンバーがリレー形式で24時間走り続けるロ・マン24マラソン大会。正午のスタート時の快晴から一転、夜中は雨が降り朝にかけて寒さが厳しくなったものの、参加48チーム全員が完走しました。1位は「柏崎激走会」の周回数159周。参加者は「マラソンはきついが、チームになって走るのはとても楽しい。また、来年も機会があれば参加したい」と意気込みました。



豊作に感謝して～仙田の収穫祭～

10月25日(日)：道の駅瀬替えの郷せんだ

今年も地元で採れた自然薯やキャベツなどを取りそろえ、屋台村や歌謡ショーなどに多くの人が集まりました。新米を使ったつきたて餅のふるまいは毎回大人気で、250人分があっという間になくなりました。餅つきには今年10月から新たに川西地域に地域おこし協力隊として配属された佐藤博和さん（37歳・大白倉・写真中）も参加。初体験の餅つきは「3人の呼吸を合わせることが大変でしたが、おいしくつき上がって良かったです」と満足そうでした。



まつだいのいいとこ、めーつけた！

10月17日(出)・24日(出)：松代地内



平成25年に作成した「まつだいいいところマップ」で紹介された地域を巡るバスツアーが開催されました。2回の開催で計48人が参加し、各地域の道祖神・庚申塔や紅葉が見頃になった松代の景観などを、それぞれの由来・歴史を聞きながら巡りました。地元の参加者からも「マップに掲載されていることは知っていたが、しっかりと見たことがなかったものもあり、改めていいところを知ることができた」と好評でした。

大ケヤキと大銀杏（松代田沢）

響け！交通安全への願い

10月17日(出)：松之山体育館



松之山地域では合併後初めての交通安全大会。新潟県警の音楽隊とカラーガード隊がドリル演奏（動きながらの演奏）などを披露しました。式典後はアトラクションとして地元の小学生から青年までのメンバーで組織された浦田太鼓の力強く躍動感のある演奏もありました。会場満員の700人の参加者は、楽しみながら交通安全への意識を高めました。



第12回きものの街のキルト展

9月19日(出)～10月4日(日)：中心市街地

16日間の開催で21,000人が訪れました。市内各所にキルト作品が展示されたほか、市民体育館ではコンテストが行われ応募作品116点を一堂に展示。今回は、韓国からの応募作品がフリー部門で金賞を受賞しました。また十日町商工会議所での特設展「深山公子・雅庸 ピクトリアルキルトが



創るファンタジーな世界」では、まるで絵画のようなキルト作品が来場者を魅了しました。

ほくほく線でつなぐよさこい演舞

10月18日(日)：まつだい駅（ふるさと会館駐車場）

21チームが参加した第11回ほくほく線元気まつりinまつだいのステージ演舞は、昨年も参加した上総組からスタート。上総組は今年のよさこい全国大会（8月に高知県で開催）で最優秀賞「輝」を受賞し、受賞記念演舞となりました。ステージ後は、裏方担当者も含めた全員に元気まつり実行委員会が手作りの木製メダルを贈り、観客5,000人とともに日本一のよさこいをたたえました。



いい歯いきいき めざそう8020

市では生涯を通じて自分の歯で、おいしく食べて楽しくいきいき過ごせることを目指して歯や口の健康づくりを推進しています。今年も「新潟県よい歯のコンクール」で5人が受賞しました。皆さんも80歳になっても歯を20本以上保てるよう、日頃のケアなどしていきましょう。

【新潟県いきいき人生よい歯のコンクール】

80歳以上で20本以上自分の歯があり、いきいきと健康的に過ごしています。

■優秀賞

■8020推進財団
理事長賞
上村千代松さん
（本町7－1）



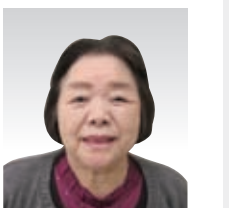
■奨励賞

■8020推進財団
理事長賞
庭野喜好さん
（稲荷町4）



■奨励賞

高橋ミヨさん
（城之古3）



【新潟県親と子のよい歯のコンクール】

親子でむし歯が1本もなく、噛み合わせや歯ぐきの状態も良好です。

■奨励賞

村山由希子さん・晴太郎さん（新宮2）





下條 美幸さん (24歳・上川町)

大学で建築を学び、卒業後に現職場に就職。現在、新築の企画・設計・インテリアコーディネートを担当して2年目。

若者×若者

十日町市の仕事人

キラメキワーカーズ

語る 仕事・会社・十日町市への思い

■問合せ
産業政策課
☎757-3139



高橋 陸さん (22歳・津南町)

専門学校で建築を学び、卒業後に現職場に就職。現在、リフォームの営業や監督などを担当して2年目。

体験・経験から建築の道へ

下條さん―大学の体験講義に行ったことで建築に興味を抱きました。出身は柏崎市なのですが、当社の就職説明会を聞いて共感できたことから就職を希望しました。高橋さん―小学生の頃に実家をリフォームしたのですが、職人さんの姿や建築過程を見ていて興味を持ちました。専門学校は新潟市にあったのですが、就職は地元の新潟・十日町を希望していました。

お客様の感動・満足にやりがいと誇りを感じます

下條さん―完成した家を引き渡すときに、完成までの過程を映像で見てもらうのですが、感動して涙を流すお客様も少なくありません。お客様の一生に関わる大きな仕事をしていることを再認識できましたし、誇りに思っています。高橋さん―リフォームは、お客様の希望であっても、設計上できないことがあります。そんなときでも、希望以上の提案をしなければいけません。職人の皆さんと協力して形にしていき、お客様の喜んだ顔を見ることが何よりのやりが

いです。

これから建築に関わりたい

下條さん―就職して一年半が経ち、建築が好きだという気持ちが強まりました。今後もスキルアップしてもっとお客様の役に立てるようになりたいです。

高橋さん―最近では自分の仕事が誇れるようになり楽しくなってきました。これからは現場で働く職人の皆さんが持つ技術や思いなどへの理解も深めて、長く建築に関わっていきたいです。



協力企業

- (株)フラワーホーム
- ・新築、リフォーム、インテリア、宅地建物取引業
 - ・十日町市中条中町
 - ・従業員24人
 - ・☎752-5477
 - ・住宅に関する困り事など、お客様の目線で解決します。「十日町産業文化発信館いこて」も元気に営業中！

～お知らせ・ガイド～

催し・講座

講演
第3回 SATOYAMA
にぎわいトーク
「快適さと楽しさを考える」

日 11月17日(火)午後7時～8時
30分

会 ベルナティオ(森のホール)
内 現在取り組んでいる実践的な活動として、まちづくりの新しい試みを紹介(高岡
チヨコレートプロジェクト・橋の県「とやま」計画・恋愛×建築プロジェクトなど)

講 大氏正嗣さん(富山大学芸術文化学部教授)
問 あてま森と水辺の教室ポプラ(ベルナティオ内)☎758-4811

第10回フォト企画妻有写真展

日 11月21日(土)～29日(日)午前9時～午後7時※日曜日は5時まで・最終日は4時まで
休 23日(勤労感謝の日)
会 情報館

間 中林(☎757-1975)

古民家でレコードコンサート

日 11月21日(土)午後2時
会 奴奈川姫の家(国保室野診療所隣)

特 座布団
間 岩田(☎090-5255-9699)

川西にぎわい空間秋のイベントのお知らせ

各詳細は11月20日ごろの新聞の折り込みチラシでも案内します。

日 11月23日(勤労感謝の日)
会 にぎわい空間

【千年の湯秋の感謝祭】
●時間 午前10時～午後3時
内 餅つき・福まき・パフォー
マンスなど
間 千手温泉千年の湯(☎76

8-2988)

【千年の市・雁木バザール】
ベリーの苗木約10種類も販売します。

●時間 午前10時～午後3時
内 フリーマーケット

間 千手地区振興会事務局・南雲(☎768-3835)

【千手地区振興会施行10周年記念講演会】
●時間 午後1時15分～2時30分

内 中野小路たかまる防犯漫談
間 千手地区振興会事務局・南雲(☎768-3835)

【マグロの解体ショー】
●時間 午前11時～

間 千手商工振興会・寿司割烹どばし(☎768-2037)

第21回 里山学会

日 11月23日(勤労感謝の日)
午後1時30分～4時30分
会 クロステン

内 地域を支える、地域で支える生物多様性―中越地域における生物多様性の価値とその保全に向けた取り組み―
講 紙谷智彦さん(新潟大学教

授)ほか

間 「森の学校」キヨロロ(☎595-8311)

自伐林業推進チエーンソー講習会

日 11月25日(水)午後1時30分～2時30分ごろ※受付1時～
会 十日町地域森林組合(大黒沢2)

対 自己所有林などを手入れしたい人

定 20人
内 操作・整備方法など
持 軍手、あればヘルメット・

チエーンソー※貸し出し可
☎ 11月19日(木)



まちなかステージトークライブ

日 11月27日(金)午後7時～9時
会 市役所本庁舎

内 まちなかステージ(市民交流センター・市民活動センター)のオープンに向けた市民活動の展開方法や施設の活用について

●出演

青木 淳さん
(株)青木淳建築計画事務所

山崎 亮さん
(株)studio-L代表

情報館 第3期コンピューター講習エクセル関数

マイクロソフト社製オフィス2013を使用します。
日 12月8日(火)・15日(火)・22日(火)午後7時～9時(3回)
対 エクセルで関数を使ったことがある人・「はじめてのエクセル」または「エクセル中級」を受講した人
定 先着18人※5人以下のとき

地籍調査(住所表示変更)市街第6・7計画区住所表示が変更になります

地籍調査が完了し、11月16日(月)をもって住所表示が変更になる予定です。住所表示変更手続きに必要な各種証明書や手続きのしおりなどは、11月19日(木)以降に該当する人へ発送します。

※新旧地番対照表や手続きのしおりは市ホームページでも閲覧できます

●市街第6計画区＝学校町1、学校町2、川原町、田川町3 (一部)

●市街第7計画区＝上川町、田川町1～3

■変更例

変更前表示	変更後表示
十日町市辰甲〇〇番地	十日町市学校町一丁目〇〇番地
十日町市卯〇〇番地	十日町市田川町一丁目〇〇番地

☎都市計画課地籍調査係 (☎757-3342)

「税を考える週間」にさまざまな広報活動をしています。本年度は「税の役割と税務署の仕事」がテーマです。国税庁ホームページ (http://www.nta.go.jp) 内「税務署の仕事」の動画配信などで紹介していますので、ぜひご覧ください。

☎十日町税務署 (☎752-3181)

【市報お詫びと訂正】

市報10月25日号11ページ下段の「地域保育園」の電話番号が誤っていました。正しくは水沢南部保育園 (☎758-2229)、白梅保育園 (☎752-4959) です。お詫びして訂正します。

「女性に対する暴力をなくす運動」期間です 一人で悩まず相談してください

☎企画政策課協働推進係 (☎757-3693)

配偶者やパートナーからの暴力・セクシュアルハラスメント (性的嫌がらせ) ・ストーカー行為・性犯罪などは女性の人権を侵害するものであり、決して許される行為ではありません。このような問題で悩んでいるときは、ぜひ相談してください。

相談内容	相談窓口	電話番号	開設期日／時間
配偶者やパートナーからの暴力	新潟県女性福祉相談所 (配偶者暴力相談支援センター)	☎025-381-1111	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分
	DV・児童虐待相談フリーダイヤル	☎0120-26-2928	毎日／午前9時～午後10時
	子育て支援課	☎757-3719	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分
配偶者やパートナーからの暴力・ストーカー被害・性的嫌がらせ	女性被害110番	☎025-281-7890	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分
	十日町警察署生活安全課	☎752-0110	24時間対応 (夜間、土・日曜日、祝日、年末年始は当直の警察官が対応)
女性の人権問題	女性の人権ホットライン (新潟地方務局人権擁護課内)	☎0570-070-810 (全国共通) ☎025-229-0211 (PHS・IP電話用)	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分 ※11月16日～22日は強化週間 ・16日～20日は午後7時まで延長 ・21日・22日は午前10時～午後5時
	新潟地方法務局十日町支局	☎752-2575	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分
職場での性的嫌がらせや性別による差別	新潟労働局雇用均等室	☎025-288-3511	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分
女性の総合相談	新潟県男女平等推進相談室	☎025-285-6605	月～金曜日／午前11時～午後6時 (受付は午後5時30分まで)、土曜日／午前10時～午後5時 (受付は午後4時30分まで)
	女性相談専用電話 (企画政策課内)	☎757-3701	月～金曜日／午前8時30分～午後5時15分

魚沼圏域救急医療フォーラム

魚沼基幹病院開設などで改善した、新しい医療環境での魚沼の救急医療を考えます。

日11月21日(土)午前2時～4時30分

会 コミュニティホール「さわらび」(南魚沼市)

内 基調講演…「魚沼地域医療再編と救急医療」、シンポジウム…「地域で創る、新しい魚沼の救急医療」※座長・富田浩さん (十日町市中魚沼郡医師会長)

講 山崎理さん (県福祉保健部 副部長)

☎十日町地域振興局健康福祉

子育て

子ども博物館 縄文スノードームづくり

家庭用オーブンで焼ける粘土で作ったミニチュア土器や土偶を入れた、オリジナルのスノードームを作ります。

日12月12日(土)午後1時30分～3時30分

対 小学4～6年生※保護者の参加可

¥ 千円※材料費

定 先着10人

持 汚れてもよい服装

☎11月28日(土)

会・申・問 市内小学校に配布

福祉・健康

は中止の場合あり
仕事でも使える、便利な関数の活用法

会・申・問 郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入し、はがき・FAXまたは電話で〒948-0072西本町2-1-1情報館 (☎750-5100、F750-5103)

看護協会十日町支部公開講演 患者の思いと医療安全を考える

日11月28日(土)午後1時30分～3時30分※受付1時～3時30分

会 クロスステン

講 豊田郁子さん (新葛飾病院 医療安全対策室)

問 中条病院看護部長室 (☎757-3018)

子育て

臨時福祉給付金の申請は済みましたが？
申請期限は12月28日！

対象と思われる人には申請書類を送付しました。期限までに手続きをしてください。

【臨時福祉給付金とは】

国が消費税率引き上げによる影響を緩和するため市県民税非課税者に支給する給付金です。詳細は市報8月25日号をご覧ください。

■よくある質問

●自分には申請書が届いていないが、母には届いていない

申請書は税の扶養世帯単位で発送しています。母が非課税者でも、別世帯の課税者に扶養されているために対象外であることが考えられます。

●申請書に子どもなどの名前が記載されていない

基準日(平成27年1月1日)時点で税の扶養にしていない

くらし・相談

16歳未満の子どもや、16歳以上でも税の未申告者は記載されていません。親が支給対象者で、収入のない子ども名前が申請書に記載されていないときは、手書きで氏名などを記入してください。

●「未申告のおたずね」が届いたが、申請書はいつ届きますか？

未申告のおたずねは、世帯に非課税者がいない場合で、世帯員の全員もしくは一部の人が税の未申告者のときに送付しています。税務課で簡易申告(所得なし)することで申請書を送付しています。

その他不明な点や、「対象だと思いが申請書が送られてこない」「対象だと思いう子どもの氏名を記入しないで既に提出してしまった」などのときは問い合わせてください。

申・問 福祉課課係 (☎757-9739) または各支所市民課

プレミアム商品券のご利用をお忘れなく

今年度発行した「十日町市プレミアム商品券」「大地の

くらし・相談

芸術祭限定プレミアム商品券「MEGO3応援券」の利用期間が終了します。返金・換金などはできません。忘れずに利用してください。

●利用期間 11月30日(月)まで

問 産業政策課 (☎757-139) または十日町商工会議所 (☎757-5111)

青色申告決算書の説明会

【営業所得関係】

日/会 12月1日(火)午前10時～11時30分・午後1時30分～3時／中央公民館、12月3日(木)午後1時30分～3時／松代総合センター

【農業所得関係】

日12月4日(金)午前10時～11時30分

会 十日町農業協同組合本店 (共通)

問 十日町税務署個人課税部門 (☎756-6001)

11月11日(水)～17日(火)は税を考える週間です

国税庁では、租税の意義や役割、税務行政に対する知識と理解を深めてもらうため、



関係をつなぐ、会話をつなぐ 自然の恵み

里山で育まれた知恵や技をぜひ紹介してください。自薦他薦は問いません。申し込み・問い合わせは企画政策課広報係 ☎ 757-3112 まで

取材した人



地域おこし協力隊
植野 健太郎さん

和子さんは旬のものを生かし、季節を感じさせる料理をたくさんつくってくれます。当たり前だった私たちの原点を思い起こさせてもらえます。



①皮むきはお手のもの。「いっぱいあるとイヤになるけどね」。
②軒先に吊るして干し柿に。ヘタについている小枝を長めにするのがコツ。③④焼酎につけ、袋に入れて密封し約1週間ほどそのままに。渋抜きした柿は食後のデザートやお茶のお供になります。

おっぱいから

— つなぐ知恵と技 —

⑥ 柿の渋抜き・干し柿
大見 和子さん（下蝦池・61歳）

「父ちゃんが、急にいっぱい採ってくるもんだから大変で」と言いながらも笑みがこぼれます。柿の木を植えて約20年。「父ちゃんが採って、私が処理する」。毎年の秋作業です。関東で夫と出会い、下蝦池に嫁いで41年目。「方言の会話が英語みたいに聞こえて、最初は輪に入れなかった」と、結婚当時は振り返ります。今年の大地の芸術祭で、布川カフ

エの中心となって活躍した和子さん。「メニューは固定しないで、そのときになった地のものを使いましょう。その方がお客さんにも喜んでもらえるし、会話が弾みます」。「なんでも出来過ぎると近所に配ります。それがきっかけでいろんな話ができるしね」。季節の収穫物は、家族や近所とのコミュニケーションに欠かせないものになっています。



市内各地から集まる、幼児から60代までの約30人のメンバーは、月・木曜日の夜（不定期）十日町小学校の体育館などで練習を重ねています。新たな仲間も募集中！

県内を中心に、現在は年間10～15回、地域のイベントや祭りをはじめ、保育園や福祉施設で活躍しています。10月4日には、千手中央コミュニティセンターで開催された市民活動見本市「めっかめっか」にて、力強い演舞を披露しました。



毎年参加している「ほくほく線元気まつりinまつだい」。10月18日、ステージ演舞と商店街でのパレード演舞は、お客さんの喝采に包まれました。「額に汗したあとのソバやビールは格別！」と、終わった後のメンバー同士の慰労も欠かせません。



妻有踊り隊 華焰 かえん

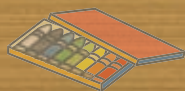
華麗な舞で地域の旗振り

「明るく楽しく元氣よく！」をモットーとする華焰、幼児から60代までが一緒に踊るよさこいチームです。年齢に関わらず「みんな大人だと思っ てつきあう」姿勢は共に育ち合う環境をはぐくみ、催しや市内各施設などさまざまな場で、踊りを通じて笑顔の輪をつないでいます。

◆問合せ：代表・小川文江さん（☎ 080-8170-2278）

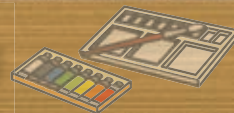
平成14年、市民運動会でよさこいを披露したことをきっかけに、翌年の雪まつりへ向けて約100人の希望者が集まり、熱気に溢れたステージを展開。終了後、小川文江さん（63歳・袋町）は「仲間づくりの場にしたい」と、有志と一緒に「華焰」を結成しました。「年齢が幅広い分、みんなが無理せず楽しめる振り付けやバランスを考えるのが大変」と小川さん。「見てくれる人の元氣が、私たちの元氣になる」と、先々で出会う笑顔を力に活動が続けてきました。5年ほど前から、踊りの指導・会計などの役割分担、活動を離れていた子どもたちの復帰など、新たな動きが出てきました。長らく八面六臂の活躍をしてきた小川さんは、「周りに愛されるグループとして続いてほしい」と期待します。年代や経験の異なる人の集うグループが摸索してきたテーマは、互いを生かす地域づくりの課題とも重なります。パワーみなぎる舞いは、関わる皆の心に焰（ほむち）を灯し、これからを照らします。

活動を紹介したい団体を募集しています
ひとサボ ☎ 761-7444



ジュニア芸術祭

千手小学校
125



生活科で育てたあさが
おに小人がくだものを運
んでいるところを想像し
ながら絵にしました。葉
っぱの形がうまくできた
ので気に入っています。



ぼくのあさがお

小林 みなみ 美波さん (1年)



50メートル走あと少し！
西野 あおい 碧さん (2年)



後ろの人においつかれないよ
うにはやく走りました。ゴール
直前でスピードをあげて走っ
ているところをかきました。



空とぶハチ
高橋 みち 路さん (3年)



ハチが空をとんでさんぽして
います。しっぽにしっかり色を
ぬって、こまかくスクラッチす
るのが大変でした。足を本物み
たいにこまかくかけました。



手ぶくろを買いに
星名 まき 茉樹さん (4年)



お話『手ぶくろを買いに』で、
小ぎつねが手ぶくろを買ってき
た場面です。白に少し黄色をま
ぜて、月にてらされた雪の色に
したところを工夫しました。



筆箱と学校の風景
佐藤 かのん 花音さん (5年)



近いものは大きく、遠いもの
は小さく見せるところを工夫し
ました。ドアのおくで人が勉強
をしているところが上手にでき
ました。



思い出に残る体育館
上原 あさみ 麻未さん (6年)



色をまぜて本物のようにカー
テンをぬったり、木の色を変え
てぬったりしたところを工夫し
ました。「日本一」の字も、本
物に似せてかきました。

